とくしま医療センター東病院高齢者虐待防止マニュアル

I. 高齢者の虐待防止に求められる視点

1. 高齢化が急速に進行する中で、高齢者に対する虐待が家庭や施設等で表面化しており、高齢者の尊厳の保持にとって、高齢者に対する虐待を防止することはきわめて重要である。
2. とくしま医療センター東病院（以下「当院」という。）職員においては、高齢者虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、虐待の早期発見に努めなければならないこととする。

II. 高齢者の定義

1. 高齢者虐待防止法では、「高齢者」を「65歳以上の者」と定義している。
2. 「65歳未満の者」についても虐待が生じている場合には、対応すべき点においては、65歳以上の者に対する虐待と同様に扱う。
3. 65歳未満であって養介護施設に入所し、その他養介護施設を利用し、または養介護サービスの提供を受けている障害者については高齢者とみなして、養介護施設従事者等による高齢者虐待の規定を適用するとされている。

III. 高齢者虐待の定義

1. 高齢者虐待とは、「養護者」や、「養介護施設従事者等」による、「身体的虐待」、「介護・世話の放棄・放任」、「心理的虐待」、「性的虐待」、「経済的虐待」に該当する行為である。
2. 上記以外にも、独居高齢者等のセルフネグレクト（自己放棄）も高齢者虐待に準じた対応が求められる。
3. 「養護者」とは、高齢者を現に養護する者であって養介護施設従事者等以外のものである。
4. 「養介護施設従事者等」とは、老人福祉法及び介護保険法に規定する「養介護施設」又は「養介護事業」の業務に従事する職員であり、直接介護に携わる職員のほか経営者・管理者層も含まれる。

IV. 高齢者虐待の種類

- 「身体的虐待」とは、暴力行為などで、身体に傷やあざ、痛みを与える行為や外部との接触を意図的、継続的に遮断する行為である。
- 「介護・世話の放棄・放任」とは、意図的であるか否かを問わず、介護や生活の世話を行っている者が、その提供を放棄または放任し、結果として高齢者の生活環境や、高齢者自身の身体・精神的状態を悪化させることである。
- 「心理的虐待」とは、脅しや屈辱などの言語や威圧的な態度、無視、嫌がらせ等によって精神的、情緒的に苦痛を与えることである。
- 「性的虐待」とは、高齢者にわいせつな行為をすること又は高齢者をしてわいせつな行為をさせることである。
- 「経済的虐待」とは、本人の合意なしに財産や金銭を使用し、本人の希望する金

銭の使用を理由なく制限することである。

- 「セルフネグレクト」とは、自己の身体的、精神的な健康の維持にとって必要な医療や衣食住を拒むなど、生命や健康に悪影響を及ぼす状況に自らを追い込むことである。

V. 高齢者虐待の予防

1. 高齢者虐待の発生要因

高齢者虐待において、意図的に悪意を持って高齢者を虐待しているというケースは少なく、多くは、養護者の介護力不足や認知症高齢者の心身状況に関する知識不足などの要因が相まって、不適切な介護や虐待につながっていくことになる。

2. 養護者への支援

高齢者虐待防止法では、養護者による高齢者虐待の防止および養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護のため、高齢者および養護者に対して、相談、指導および援助を行うとともに、養護者に対して必要な措置を講ずることが規定されている。養護者への支援は虐待の解消と、高齢者が安心して生活するための環境整備に向けて必要と考えられる場合に、適切に行うことが求められる。

VI. 高齢者虐待防止への対応体制

1. 虐待防止責任者は、院長があたるものとする。
2. 障害福祉サービス事業等を利用する高齢者や保護者、職員等が虐待に関する相談や通報を行いやすくするため、院内に虐待防止担当者（経営企画室長）を設置する。
3. 虐待防止担当者の職務は、次の通りとする。
 - ア) 本人や家族、職員等からの高齢者虐待通報受付
 - イ) 虐待内容、高齢者等の意向の確認と記録
 - ウ) 虐待内容の虐待防止責任者への報告
 - エ) 虐待改善状況の虐待防止責任者への報告

VII. 高齢者虐待の早期発見及び通報

1. 当院の職員は、高齢者虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、高齢者虐待の早期発見に努めるとともに、高齢者虐待に関する相談体制の整備、その他虐待を防止するために必要な措置に取り組む。
2. 当院の職員は、高齢者虐待の防止、養護者に対する支援等の重要性に関する理解を深めるとともに、国又は地方公共団体が講ずる高齢者虐待の防止、養護者に対する支援等の施策に協力するよう努める。
3. 利用者本人及び保護者、職員等から虐待の通報があるときは、虐待防止対応規程に基づき、対応しなければならない。
4. 当院の職員は、虐待を発見した際は、虐待防止担当者に通報しなければならない。

VIII. 高齢者虐待通報の受付

1. 高齢者虐待の通報は、別に定める「虐待通報書」によるほか、様式によらない文書、口頭による通報によっても受け付けることができる。

2. 虐待防止受付担当者は、利用者等からの高齢者虐待通報の受付に際して、「虐待通報の受付・経過記録書」に記録する。
3. 虐待通報の内容が虐待通報者の誤認だったことが明らかになった虐待通報について、虐待通報者自らが虐待通報を取り下げたい旨の申し出があった場合、当該虐待通報を取り下げることができる。

IX. 高齢者虐待の報告・確認

1. 虐待防止担当者は、受け付けた虐待の内容を虐待防止責任者に報告する。
2. 投書等匿名による虐待通報があった場合にも虐待防止責任者に報告し必要な対応を行う。
3. 虐待防止担当者から虐待通報受付の報告を受けた虐待防止責任者は、通報の内容を確認する体制を指示するなど、事実の把握に努める。
4. 高齢者虐待や不適切な支援が認められた場合は地域包括支援センターへ通報する。
5. 虐待かどうかの判断が難しい場合においては、虐待でないことが確認できるまでは虐待事案として対応する。
6. 虐待であるかどうかの判断に当たっては、以下の点に留意する。
 - ア) 虐待をしているという「自覚」は問わない。
 - イ) 高齢者本人の「自覚」は問わない
 - ウ) 家族の意向が高齢者本人のニーズと異なる場合がある。
7. 虐待防止担当者は、虐待通報受付から解決までの経緯と結果について書面により記録する。
8. 虐待防止担当者は、虐待通報者が満足する解決が図られなかった場合には、市区町村の苦情相談窓口等を紹介するものとする。

X. 虐待防止委員会の設置

1. 虐待防止責任者は、高齢者虐待の防止を図るため、虐待防止委員会を設置しなければならない。
2. 虐待防止委員会は、定期的又は虐待発生の都度開催しなければならない。
3. 虐待防止委員は、日頃より高齢者虐待防止の啓発に努めなければならない。

高齢者虐待の通報窓口

- とくしま医療センター東病院—医事 経営企画室長 （内線番号：120）
- 板野町役場町民センター 地域包括支援センター
TEL：088-672-1026

附則

平成30年 7月10日施行
令和 6年 4月 1日改訂
令和 7年 4月 1日改訂